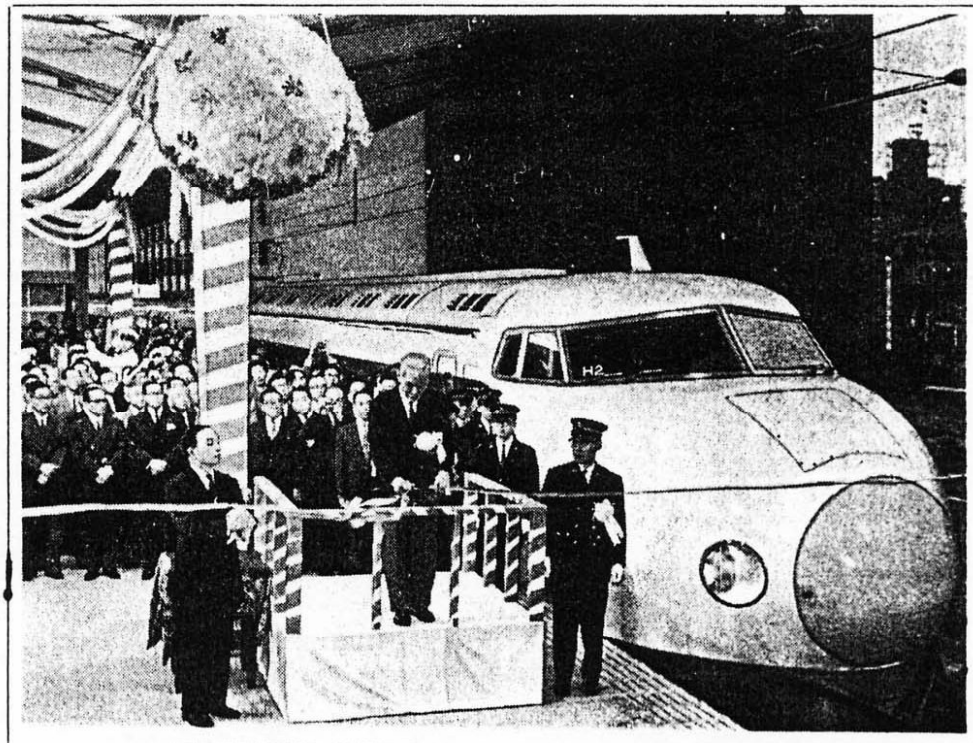
4版● 第31774号 (明治25年創刊) (明治25年3月8日第3種郵便物認可・昭和21年2月17日国鉄特別扱承認) 毎日新聞 (夕刊)



東海道新幹線の出発式 壇上でテープを切るのは石田国鉄総裁＝東京駅で

"新しい鉄道時代"幕あけ

東海道新幹線 営業運転始まる

東海道の新しい大動脈＝わが国の東海道新幹線は一日開業した。午前六時、東京・新大阪五二キロを四時間で結ぶ超特急「ひかり一号」が東京駅を、「ひかり一号」が新大阪をスタートした。最高時速一二〇キロ、世界一の性能列車の登場で、新しい鉄道時代、の幕はあけた。

午前五時半、東京駅新幹線一番列車の超特急「ひかり一号」の乗客と見送りの人々をどっと押しかけ、異常な興奮につつまれていた。真新しい新幹線専用の十九番ホームには"ひかり一号"がアイボリーホワイトとブルーのツートンカラーの巨体を横たえていた。同四十分、東京吹奏楽団の演奏にみちびかれてモーニング姿の石田総裁が現われ、あとに織崎鉄道総裁、藤井技術長、加藤新幹線支社長ら国鉄幹部七十人が、晴れやかな表情で続いた。一番列車の出発式だ。東・東京都知事から左藤大阪府知事と中馬大阪市長にあてたメッセージが井上清専務理事に託された。

同知事代参の名取は千代田区永田小六年、本田和代さん、同区福士長町小同、鈴木いずみ、中央区月島一小同、清水貴子、同区築地小同、平野美智子さんら四人の駅伝襷長元から石田総裁、大橋東京駅長、山本常一運転士、井上清車掌に贈られた。

この日のために作曲された"超特急行進曲"の演奏が始まる。"汽笛一声"のメロディーを盛り込んだリズムー。石田総裁が紅白のテープを切り、午前六時"ひかり一号"は静かにすべり出した。

舞いあがるハト、打上げ花火が鳴りわたる。万歳と拍手のあらし。みるみる遠のく"ひかり号"の姿を追いながら、国鉄幹部は無事故運転を祈った。

また新大阪では八木関西支社長がテープを切って上り超特急「ひかり二号」がスタート、名古屋、静岡駅でもそれぞれ一番列車の出発式が行なわれた。

両陛下を迎えて開業式

東海道新幹線の開業式は天皇、皇后両陛下をお迎えして一日午前十時から東京・丸ノ内の国鉄本社で行なわれた。式には松前運輸大臣、船田衆院議長、田中参院議長、平塚参議院議長、川島正次郎自民党副総裁をはじめ国鉄幹部十何倍三前総裁らの日給三百人が列席した。

天皇陛下から国鉄職員の勤労をねぎらうおことばがあり、石田国鉄総裁は、高速運転の安全を守るため全線立体交差化や自動列車制御装置、列車集中制御装置など万全の措置を講じたとき力説「新幹線が国民生活と経済発展に大きな力を発揮するよう陛下には四十五万職員の総力を結集して、期待にそいます」とお答えした。また衆参両院議長と松前運輸大臣が"新幹線礼賛"の祝辞を述べた。

天皇が国鉄の式典にのぞまれたのは国鉄開業の明治五年十月十四日と、同十年二月五日の大阪―京都間開通のときについで三度目、八十八年ぶりである。

天皇陛下のおことば（要旨）

日本国有鉄道の東海道新幹線が長多の困難にうちかってみごとに完成し、本日その開業式を迎えるにいたったことは私の深く喜とするところであります。わが国の鉄道は近年著しい発達をとげ、国民生活の向上と産業経済の発展に多大の貢献をしてきましたが、関係者はなお絶えずいっそうの力を合わせ、輸送力の充実と安全の確保に努め、その使命を達成するよう希望します。

北九州、東北へも延長したい

石田総裁談話 新幹線が予定どおり開業したことはまことに喜ばしい。東京―大阪間はこれで非常に近くなり、輸送力も倍増され、旅客はさらに岡山、広島、北九州へ延長し、新幹線の効果をいっそう発揮するようにしなければならないと思う。また将来、東北方面への延長も考えることになろう。全国主要幹線にはまだまだネックがある。資金調達などに政府、国民の絶大な支援を切望する。

毎日新聞（夕刊）

昭和39年（1964年）10月1日